

市民の交通行動変容を促進する 持続可能な生活交通情報 フィードバックシステムの研究開発

研究代表者

池内克史¹

研究分担者

大口敬¹

桑原雅夫²

上條俊介¹

小野晋太郎¹

大石岳史¹

堀口良太³

吉村方男⁴

田中淳⁵

長谷川雅人⁶

佐々木卓⁷

市川博一⁸

1 東京大学

2 東北大学

3 (株)アイ・トランスポート・ラボ

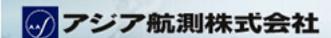
4 アジア航測(株)

5 (株)オリエンタルコンサルタンツ

6 (株)国際情報ネット

7 (株)長大

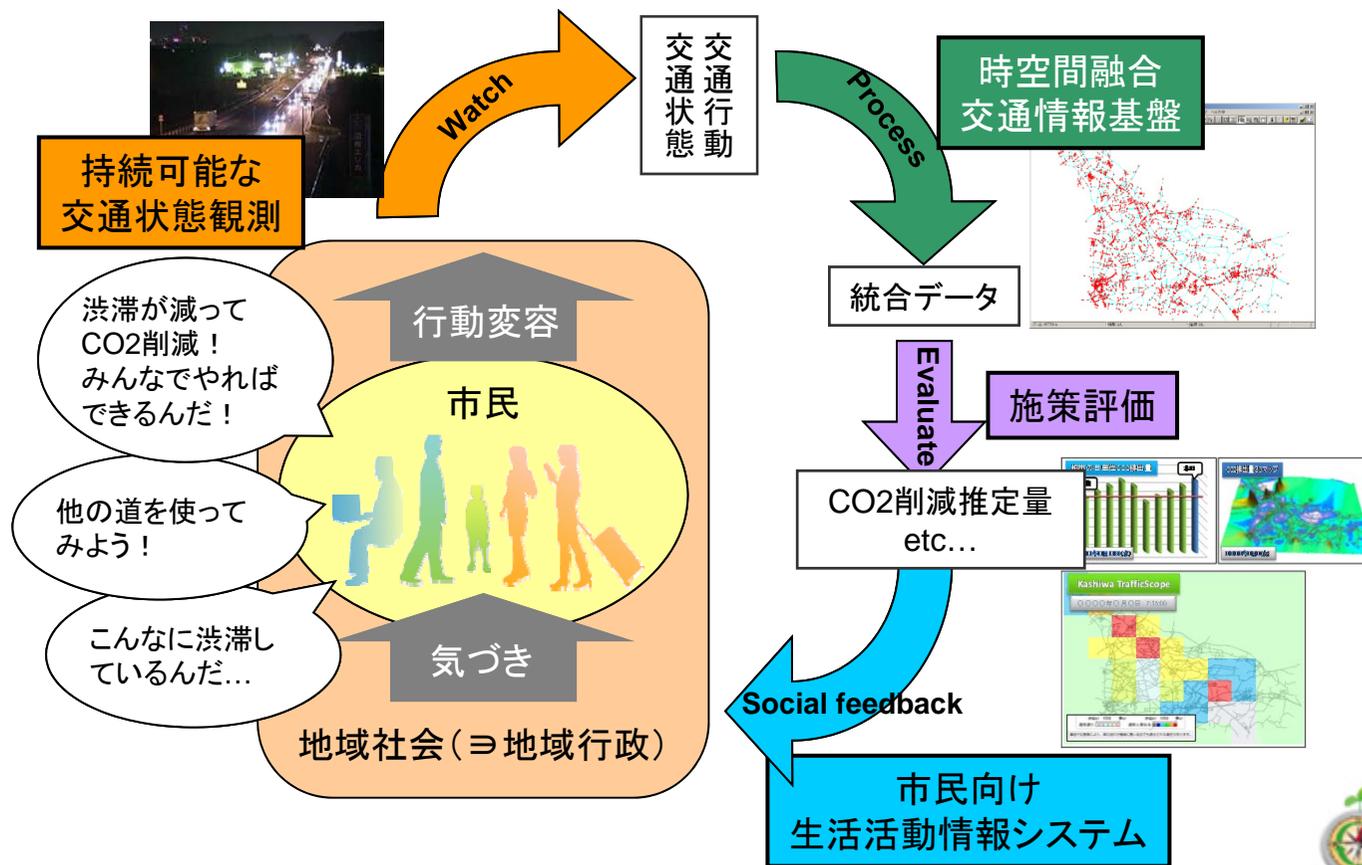
8 パシフィックコンサルタンツ(株)





本研究のねらい

ドライバーのみならず、広く一般市民を対象とした
社会フィードバック型情報提供システムによる
道路交通からのCO₂排出削減効果の検証



生活活動情報(CO2情報)



http://www.kashiwa-smart.jp

CO2スコープ

道路別CO2排出量

仮想化空間イメージ

CO2排出グラフ

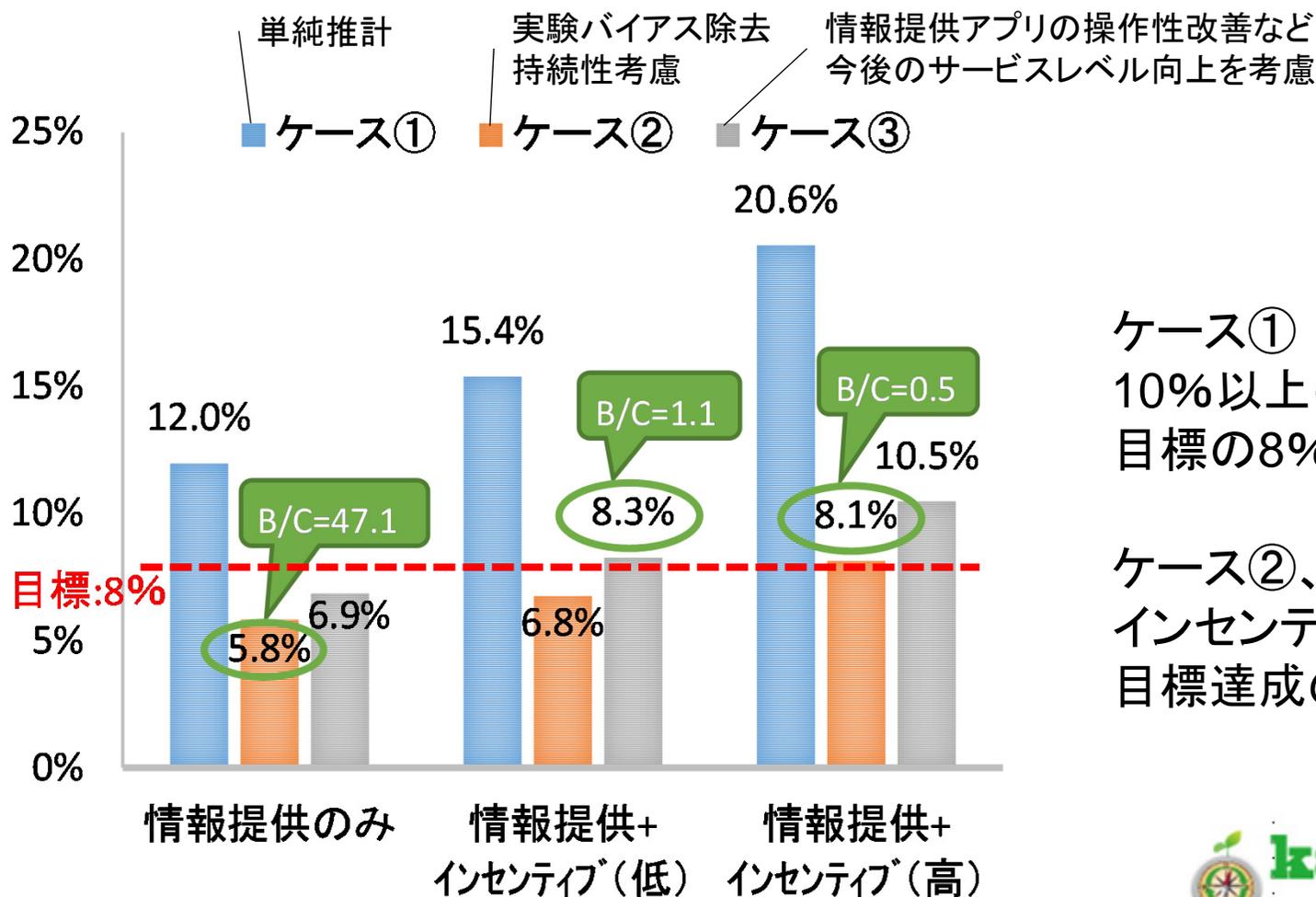
行動変容のススメ



千葉県柏市における検証結果



情報提供およびインセンティブ効果による交通行動の変容率とCO2排出削減率を、パーソンプロブ調査等を通じて評価



ケース①
10%以上の削減効果
目標の8%を達成

ケース②、③
インセンティブにより
目標達成の可能性

今後の展開 (1)



「柏ITSスマートシティ構想」の一環として位置づける



他プロジェクトとの連携

総合的な枠組みによる地域交通問題の解決、経済活性化など

今後の展開 (2)

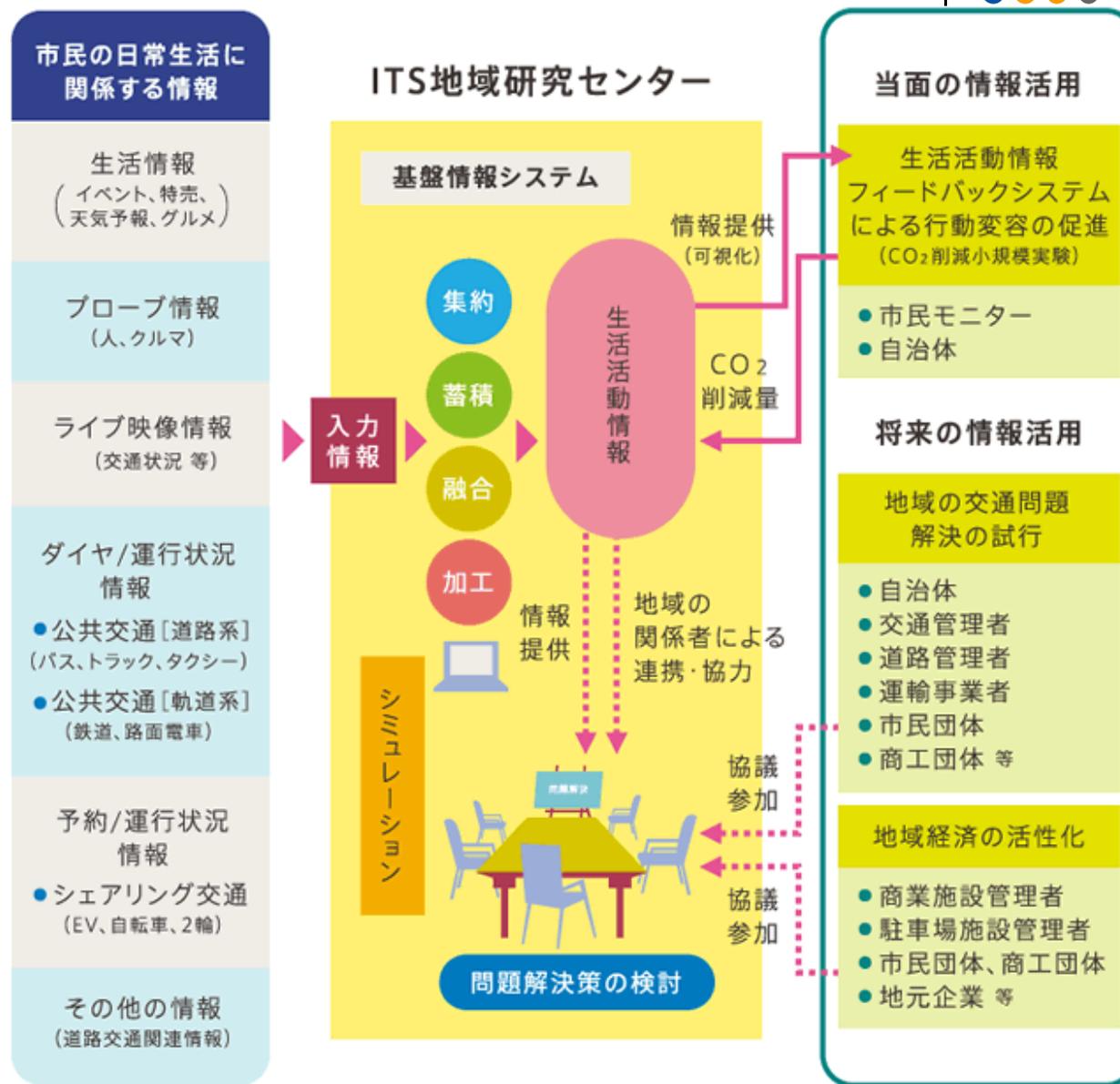


大学主導の 継続的運営 拠点を設置



- 地域の情報拠点
- ステークホルダ連携
- 水平展開

：



波及効果創出への取り組み



- 波及面から見た本研究のポイント
 - 一般市民を対象とした交通施策の定量評価が可能
→ 迅速・合理的な施策決定
 - クラウドベースシステム → 水平展開(輸出)が容易

- 波及事例
 - 都市交通エネルギー統合マネジメントへの適用
 - データ融合による災害時のモビリティ支援への適用

